

平成21年度 京都府立山城高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>①文武両道に基づく、自主自律の精神を育み、将来の国家社会の担い手として、たくましく生きる人材の育成を目指す。</p> <p>②生徒が自ら進路を切り拓くため、大学との連携を視野に入れた、確かな学力を保証する質の高い授業を展開する。③人権と学ぶ権利が尊重される、共に学び合い、ロマンあふれる文化の花開く学校づくりを目指す。</p> <p>④教職員が一致団結し、常にプロ意識を持って教育活動に専念できる働きがいのある学校づくりに努める。</p> <p>⑤創立100年を超える京都の伝統校として、卒業生や地域に信頼されその期待に応える、品格のある学校づくりを一層進める。</p> <p>⑥新設の文理総合科においては、英語力を初めとする豊かなコミュニケーション能力を育てるなど、新しい教育理念の実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食育や健康教育等を通して、生徒の生活習慣の確立を一層図ることが必要である。 ・生徒の授業を大切にする態度や家庭学習の習慣を養い、進路実績に繋がる指導を一層強化する必要がある。 ・HR活動、球技大会や山城祭等の学校生活全体での指導を通じ、生徒の自主・自律の精神を培うことができた。 ・聴覚障害教育の成果と課題を踏まえ、特別支援の必要な生徒への指導のあり方、対応について備える。 ・頭髪・服装・遅刻の防止の面で共通理解を図り一致した指導ができたが、なお推進する必要がある。 ・本校教育の活性化の一環として取り組む高大連携、国際交流は、多くの実績を残せた。 ・PTAや同窓会との連携をはかりながら、伝統を重んじ、地域に開かれた学校作りを進める。 ・文理総合科において、教育課程や補習など、教育内容・活動を進展させることができた。 	<p>①「早起きすっきり、夢実現」の取り組みなど、基本的な生活習慣の確立をとおして、健康なこころと身体を育む教育を進める。また、部活動や生徒の自主活動をすすめて、山城高校21世紀塾等で社会的視野を広めながら、時代を担うリーダーなど人材育成に努める。</p> <p>②日々の授業を充実するため、内容や指導方法の一層の工夫、改善を試み、生徒に確かな学力をつけ、その進路実現に努める。また、特色ある高大連携や国際交流活動の教育活動を通して一層、教育活動を活性化させ、生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>③聴覚障害教育を充実させ、生徒の進路実現を図ると共に、特別支援教育の定着を進める。</p> <p>④内外による学校評価に基づいて教育活動の点検および改善を行い、教職員同士互いに研鑽して専門性を高め、学校経営計画のもと信頼される学校づくりを目指す。</p> <p>⑤学校説明会・公開授業・社会人講師の活用などにより地域や小・中学校およびPTA・同窓会との連携を図り、開かれた学校づくりを一層進める。併せて、学校HPやガイドブック等の学校紹介にかかる広報活動を充実させる。</p> <p>⑥文理総合科については、土曜補習等の充実により、学科の理念を生かした課題解決型の学習を一層積極的に展開する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	期末	総	
組織・運営	学校評議員等外部の評価・意見を聴取し、改善を図る	学校経営計画の公表	2	B	A	B 次年度は、学校評議員全員を対象にした学校評議員会を実施予定。 各種会議の再編を検討。
		学校評議員・PTAに評価・意見を求めるためアンケート等を実施	3	—	A	
		次年度に向けた改善点を明確化	4	B	B	
	役割分担を明確にし組織的な学校運営を図る	経営方針・重点目標の理解	5	B	B	
		担任・教科担任間の連携及び分掌・教科間等の連携	6	B	B	
		各種会議の効率的運営	7	B	C	
		外部機関との連携	8	B	B	
		教科間の連携の強化	9	B	B	
教育課程	課題整理と改善を行い、生徒の全面的な発達を促進	現状での課題を整理した教育課程の検討と実施	9	B	B	
		生徒の進路実現に向けて教育課程を工夫	10	B	B	
		教科間の連携の強化	11	B	C	
教科指導	基礎基本の充実と、興味・関心の深化	基礎・基本の確立のため、補充や家庭学習の充実を図る	12	B	B	B 各教科担当者と随時調整の必要あり。
		定期的な課題を課し、確認テストなどの小テストを実施	13	B	A	
		定期考査と日々の指導の効果的な関連付けを行う指導	14	B	A	
		個に応じた指導方法の精選や計画的に題材を選び学力を向上	15	B	B	
	表現力や鑑賞に係わる能力について学習指導を充実	創造力を全ての教科へ敷衍し、豊かな表現力を醸成	16	B	B	
		特別講座の英語によるプレゼンテーションの展開	17	A	A	
文理総合科教育	文理総合科を核とした国際的・現代的視野の育成	語学研修や国際交流によるコミュニケーション体験の実施	18	A	A	A 完成の高いプレゼンが行われた。様々な機会を利用し、コミュニケーション体験をもった。また、先進的教育を展開できた。
		文理総合科の先進的教育を普通科に押し広げる取り組みを推進	19	B	B	

特別活動	生徒の自発的自主的な取り組みを推進	部活動への積極的参加を促す	20	A	A	A よく達成できている。 高い部活動加入率・活気のある学校行事を維持できている。
		体育祭・文化祭等、学校行事に生徒の主体的活動を促す	21	A	A	
		自主的な生徒会活動やHR運営委員会の活性化を促す指導	22	A	A	
進路指導	進路希望の実現に向け、進路選択能力の涵養と学力向上を図る指導の充実	3年間を見据えた補習計画の立案・実施	23	B	B	B システムとしての確立の必要性あり。補習は単年度毎に計画を組んでいるため、3年間の系統性は十分ではないが補習体制は充実している。将来に対する進路意識が希薄であり、その育成が課題である。
		進路HR、進路がイタズ、面談の系統的实施と進路情報の提供	24	B	A	
		多様化する入試、就職状況に対応する情報の収集と提示	25	B	B	
		人間の生き方と関連づけ進路を考え目標をもたせる指導	26	B	B	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と社会的マナーの育成	集団の一員として規則の意味と内容を理解させ遵守させる指導	27	B	B	B 時期を早めた交通安全指導が一定の成果を上げたが、まだまだ課題は多い。
		身嗜みや生活態度、言葉使い、礼儀等社会的マナーの指導	28	B	B	
		携帯電話・自転車乗車のマナーや時間等を守らせる指導	29	B	B	
	社会的規範意識の高揚	問題行動に対する事前防止・事後継続指導の実施	30	B	A	A 事後継続指導においては課題は多い。
		問題行動の早期発見の為、担任、関係機関との連携強化	31	B	A	
人権教育	個を大切にす教育の推進及び人権問題についての正しい理解を図り、他者を尊重する態度を培う	困難な条件の生徒の社会的自立を目指し進路保障の取組を推進	32	A	A	A 日常の教育活動全体の取組に若干不十分な点がある。 ある程度はできている。
		全校で「人権教育特設LHR」を計画し、実践的態度を育成	33	A	A	
		生徒の実情と課題に応じた人権教育の在り方を追求	34	B	A	
		生徒と接する時間を確保し日常的な人権問題に気付かせる指導	35	B	B	
		人権学習を通し他人への思いやりや正義感の大切さを学ばせる	36	B	B	
メディア・リテラシー (情報伝達処理能力)	主体的な情報選択能力と、モラルある表現力と情報活用能力の育成	情報活用能力を高められるよう授業の展開の工夫	37	B	B	B 大部分の節度ある利用ができています。
		図書や新聞の活用と読書意欲の向上や読書習慣の形成	38	B	B	
		学習情報センターとしての学校図書館の計画的な利用の推進	39	B	B	
		図書館・コンピュータ教室の情報センターとしての機能の向上	40	A	B	
国際理解教育	自文化理解に基づく他文化理解の推進	留学生や海外研修旅行時に自国文化の紹介を行う	41	B	A	A ドコの高校生を短期間受け入れ、交流ができた。
		外国の学校との交流や留学生の受け入れを通じ他文化理解を推進	42	B	A	

健康安全教育	健康安全教育の実施をはかり、心身ともに健全な生徒の育成に努める	生徒の健康課題に適した教育の充実	4 3	A	A	各種活動を通じて一定の成果を上げている。	
		健康診断を通じて自らの健康を管理し、育成する能力を向上	4 4	A	A		A
		交通安全の啓発と安全に貢献できる能力と態度の育成	4 5	B	B		
		保健だよりを中心とした広報活動の充実	4 6	A	A		
環境教育	校内美化の推進と身近な環境問題に関心をもたせ、主体的に行動する態度や能力の育成	各教科での身近なところから地球環境を考える授業の展開	4 7	B	B	カリキュラムの変更により教科との連携が難しくなっている。保健委員会の活動を通じて一定の成果を上げている。	
		環境に優しい3Rの推進する主体的な態度を育成する指導	4 8	B	B		
		保健委員会を中心とした環境問題への取り組みを推進	4 9	A	A		
特別支援教育	特別支援教育を円滑に推進	特別支援教育への理解を深める。	5 0	A	A	全校での特別支援体制の確立が課題である。	
		校内体制を整備し、教育機能の向上を図る。	5 1	B	A		
		特別支援コーディネーターを中心に専門機関との連携を推進	5 2	B	A		
聴覚障害教育	聴覚障害生徒への個に応じた支援と指導及び聴覚障害教育についての啓発と環境の整備	聴覚・補聴器・聴覚支援機器等の活用と管理	5 3	A	A	個別に教科学習面の課題の対応を図る必要がある	
		学習課題への支援と進路実現に向けた関係機関との連携の強化	5 4	B	A		A
		全校生徒への聴覚障害への理解の促進と啓発的指導の推進	5 5	A	A		
		聴覚障害教育推進にむけた分掌間の連携調整及び研修会の実施	5 6	A	A		
研究・研修	研究・研修を通じ、資質能力の向上を図る	府総合教育センター研修の受講者数の増加	5 7	B	B	昨年並みの研修を実施している。	
		各分掌主管の教職員研修会をそれぞれ年1回以上実施	5 8	B	B		
施設・設備の整備・管理	施設・設備の安全管理 教育環境の保全と安全の確保	危険要因を回避するため学期に1回自主点検を実施	5 9	B	A	危険要因の回避着手 早期対応に着手 中庭の緑化に着手	
		課題発生時、各部と調整協議し早期対応を実施	6 0	B	A		
		校内緑化事業や校内美化を計画的に実施	6 1	A	A		
文書・情報管理	適正かつ円滑な処理の徹底	年1回保存期間を経過した文書の破棄・整理を実施	6 2	A	A	夏期に実施済 日常的に趣旨徹底	
		文書等の管理を徹底	6 3	B	A		
家庭・地域社会との連携	連携を密に保ち、相互の信頼に基づく協力関係を構築	生徒の保護者との連携を常に意識し、協力関係を構築	6 4	B	A	PTAの行事についての保護者への連絡が不十分であり、他の連絡方法を検討中である。	
		PTA活動を通じ、教育活動への親と学校の相互理解の深化	6 5	A	A		

次年度への改善の方向性	特別活動などに対して、生徒が積極的に取り組む姿勢が培われ、それが各種の学校全体の取り組みに反映されつつある。しかし、教科・組織間の連携の強化や、教育課程の工夫について検討の余地がある。新教育課程への移行の中で、課題解決の方策を具体化する予定である。
-------------	--

1 : 達成できている 2 : どちらかといえば達成できている 3 : どちらかといえば達成できていない 4 : 達成できていない 5 : 判断できない